



東村山稲門会ニュース

創立 20周年記念特別号

平成 28 年 11 月 19 日発行

発行責任者：當間 昭治

編集者：當摩 照夫

ホームページ <http://higashimurayama-waseda.jp/>

東村山稲門会設立二十周年記念に寄せて

早稲田大学 総長
鎌 田 薫



東村山稲門会設立二十周年まことにおめでとうございます。日頃から當間会長を中心に、会員の皆様が一丸となって多彩な校友会活動を積極的に展開され、早稲田大学および早稲田大学校友会の発展にご貢献いただいておりますことに、心からの敬意と感謝の意を表します。

早稲田大学校友会は約61万人の会員数を誇り、世界中で1300以上の稲門会が活動しています。多様な個性を備えた人材が集い、幅広い分野で国際的なネットワークを築いていることがその最大の魅力となっています。東京都三多摩支部においても26の地域稲門会が活発に活動されていますが、東村山稲門会にはその中心的な存在として、これからも大いに校友会活動を盛り上げていただければ幸いです。

東村山稲門会は、東村山市に住む早稲田大学校友のつながりを大切に、この街で何ができ、何をしたいのかを共に考え、実践する場を作りたい、そして、地域社会において世代や立場、活動の分野を超えた人間的ふれあいの場を作りたいとの趣旨で発足され、1996年11月に所沢キャンパスにて設立総会が行われたと伺っています。それから20年が経過した現在、会員数は190名を誇り、総会をはじめとした数々の会員相互の交流会が開催され、今年には女子会が新たに立ち上がるなど、設立当初に掲げられた趣旨を見事に実現され、発展を続けられていることに深く敬意を表します。

現在、早稲田大学では、日本各地、世界各国から、個性豊かな学生が集い、切磋琢磨しながら、人間力に磨きをかけるという特色をさらに発展させるべく、2012年に策定した将来計画“Waseda Vision 150”のもと、多様性を確保し、個性を伸ばす教育環境づくりに精力的に取り組んでいます。

人間力、洞察力を備えたグローバルリーダー育成のため、対話型・問題発見・解決型の少人数授業やインターンシップ、ボランティアをはじめとする体験型授業を充実させ、文化的背景や社会的立場の異なる多様な人たちとの交流を通して、学生の問題発見・解決力や異文化理解力を涵養するために、大胆な教育改革を実行しています。現在、学部の授業の83%が50人以下、45%が20人以下の少人数クラスとなり、年間延べ1万5千人から2万人の学生が体験型学習に参加しています。今後更に世界中でご活躍の校友の皆様方との連携を一層、密にすることによって、体験型学習の機会を増やすなど、校友と学生、校友と大学との連携を強化していきたいと考えています。

今後も、本学は、校友の皆様方のご活躍に支えられながら、世界中の人々から親しまれ、期待され、そして、それに十分に応えうる大学となるべく力強く歩み続けてまいりますので、何卒引き続き宜しくご指導・ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

東村山稲門会の一層のご発展と会員の皆様のもますますのご健勝を祈念し、私からのご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

東村山稲門会 創立20周年を迎えて

第5代会長 當間 昭治



東村山稲門会は平成8年11月10日所沢キャンパスにおいて設立総会を開催し、その歴史をスタートさせました。本年平成28年は記念すべき創立20周年に当たります。

20周年を振り返ると様々な出来事が思い出されます。その記録を留めているのが我が稲門会の誇りでもあり、毎月発行している「東村山稲門会ニュース」です。第1号は平成9年4月1日、A4サイズ片面コピーの3枚で発行されました。以後途絶えることなく毎月発行し、28年11月5日の最新号で第236号となりました。

ニュースは関係各位のたいへんなご努力のもと、編集・印刷・封入作業を行い、ポストパーソンによる会員宅へのお届けも継続実施してまいりました。内容は、会からのお知らせ・行事案内と実施報告・同好会活動報告や会員からの投稿です。同好会の活動は予定がタイムリーに記載され、会員のスケジュール作りに役立っています。「同好会等 短期予定表」が8P目に2ヶ月分が掲載され、編集後記と共に必ず目にふれるよう工夫がなされています。又、投稿記事は自由な意見交換の場としての役割を担っていますが、新たに会員になられた方の自己紹介の場としても活用されてきました。紙面はカラーや白黒と時々事情を反映していますが、記事と共に掲載される写真を考えるとカラーが望まれるところです。何れにしても8P建のニュースの毎月発行は全国数ある稲門会の中で我が東村山だけと自負しております。是非今後も運営スタッフや内容の見直しを行いながら、継続発行を実施したいと念じております。

20周年を振り返り、記念事業の中で印象に残るものは、何と言っても10周年の「ボニージャックスと歌おう」です。平成18年11月25日、満席の中央公民館ホールで総会のイベントを兼ねて実施されました。市民や地元の小中学生も招待し、ボニーの素晴らしいハーモニーとトークに酔いしれました。そしてこれを機に作成されたのが「東村山稲門会の歌」です。作詞は会員から募集し、5名の会員からのものを事務局で編集、作曲はボニーのリーダーである西脇さんをお願いしました。ニュース同様、自前の歌を持っている稲門会ということで、大学当局や近隣稲門会からも注目されています。今では校歌と共に各イベントで必ず歌われ、会員相互にすっかり定着しました。

20周年記念事業では、各同好会が従来にも増してボリュームアップした企画を実施しました。又、特別企画として実施した「第54回本庄～早稲田100キロハイクの応援」は全国の稲門会として初めての試みであり、市の情報チラシに銘菓「だいじょぶだー饅頭」や塩飴を添えて手渡しし、現役学生から熱い視線を受けました。そして今期は同好会が2つ（女子会・書道同好会）増え、計16となりました。

定期事業の中で「市民雑学講座」は年4回実施、最近では市民の参加が全体の7割以上とすっかり地元に着し、毎回これを楽しみにしている方も増えています。ただ、稲門会の各事業は会員の参加優先です。会員が参加しやすい場面を作り、魅力ある企画を実行しながら相互の親睦や価値観の共有が図られればと思っています。そこで古くて新しい問題「新規会員の獲得」です。20周年では、「組織増強・活性化委員会」の指揮のもと活発な運動を展開、17名の新規会員を獲得することができました。

最後に私が会長を引き受けた時の言葉を記します。

「遠くの親戚より地元の稲門会 東村山稲門会でふれあいの輪を」

2016 新年会



2016 お花見



2016 納涼会



20周年記念に寄せる「200文字の想い」

創立 20 周年記念特別号にご寄稿いただきました皆様に心から感謝申し上げます。当会の創立 20 周年を祝う一環として、11 月の総会にあわせてニュース記念特別号を発行すること、その当該号にできる限り多くの会員皆様の記念の一言集を掲載することを広報委員会が今春 3 月に提案しました。

紙幅の都合上、また編集の上から何かと制約を設けたために執筆し難かったことと拝察いたします。限られた紙面スペースを稲門仲間で分かち合ったこととお許し願います。

お陰様で記念号に相応しく 118 名の会員の方々にご寄稿いただくことができました。

早稲田を愛し、母校を賛歌し、周囲の仲間を慈しむ会員皆様のそれぞれの「200 文字の想い」は五十音順に編集させていただきました。
広報委員会代表 岡田 一郎

趣味の野菜づくり

青木 淳(昭 43 理工)

私は有機無農薬の野菜づくりに挑戦しています。群馬県伊勢崎市に家内が相続した小さな土地を利用して 5 年前に野菜づくりを始めました。家庭から出る生ごみ、雑草などで堆肥をつくり畑に施しています。今は夏野菜の盛りです。とれたての野菜・果物の味は最高です。問題は虫や鳥との競争です。最近では虫達が食べた後に頂くという精神でやっています。

日々の暮らし

青柳 真一(昭 39 理工)

早いもので卒業して 52 年、東村山市で暮らし始めて 50 年経ってしまいました。今は自宅で設備設計をマイペースで行いながら何とか元気でやっております。最近では年 1 回のペースで、クラスメイト 4 ～ 5 人での近郊散策・食事会を行い、学生時代のこと、お互いの近況等を語り合ったりしております。「東村山稲門会ニュース」をいつも楽しく拝読させて頂いております。ポストマンの方に感謝し、この場をお借りして御礼を申し上げます。

東村山稲門会設立 20 周年を迎えて

青山 稔(昭 37 法)

会の設立から 2 ～ 3 年後と思いますが、会の案内で入会をしました。今から 10 年前に、サラリーマン人生から自由人になり、会の誕生会、旅行会、そしてウォーキング同好会等に皆さんと参加をして楽しんでおります。又、当時の小亀会長からの要請で、会の幹事、ポストマン(野口町)をしています。私も間もなく 77 歳になりますが、会員の皆さん、お元気で前向きな人生を送られていますので、良い刺激を受けております。

趣味と生活

赤荻 洋一(昭 40 商)

神田で生まれ、神田で育った私は(疎開時期はありましたが)小さい頃から鉄道が好きで、御茶ノ水の聖橋で見えていました。そのまま大きくなったようで、部活は鉄研、就職は鉄道会社です。定年時に再就職を聞かれ、玉モノの駅員を希望し 24 時間勤務を経験しました。その後はヨーロッパの鉄道を追いかけて来ました。現在は鉄道関係のデータベースを作成中です。趣味を持っていたことがサンデー毎日を忙しく過ごせる原点になりました。

会員皆様との出会いに感謝

秋山 剛(平 18 人科)

東村山市稲門会に入会し約 6 年が経過し、様々な方々との多くの出会いがありました。また、雑学講座でお話しする機会を頂き、「デンマーク福祉とこれからの東村山」について、会員を始め市民の方々にお話させて頂けたことは大変貴重な機会となりました。さらに今年度初の試みとして、100 キロハイクの応援イベントを岡田さんや役員の方々に加え、若い会員の皆様と開催できたことは特に印象的でした。今後ともよろしく願います。

時の流れに身をまかせ

荒巻 優之(昭 51 法)

テレサ・テン昭和 61 年のヒット曲▽ 42 歳で惜しまれながら亡くなった▽昭和 28 年生まれのテレサと私は同い年▽幾度かテレサとした仕事▽たどたどしい日本語でも素晴らしい感性で歌謡曲を表現した歌手▽それは彼女のあの美声によるもの▽歌番組のリハーサルで日本語の歌詞を忘れ中国語で歌ったフレーズも忘れられない▽時の流れに身をまかせ私は 63 歳▽高田馬場の変わらぬ風景▽学生時代に通った店▽今日も西武線の窓から眺めて帰宅する。

140km/h プロジェクト始動

伊井 純太(平 18 人科)

野球人の1つの憧れとして 140km/h の球を投げるという事はプロのスカウトからも注目を浴び、球児の目標とされるスピードであります。私、33 歳にして1年後に 140 km/h を投げるというプロジェクトを始動しました。30 代半ばからでも緻密に体を鍛えれば 140km/h は投げられる事を証明するというプロのトレーナーの方の企画であります。私は 22 歳の時に 130km/h しか投げられなかったのですが、絶対に投げられるとトレーナーの方は言います。どんなトレーニングをするのか、はたして投げられるのか御期待下さい！

「月例集会」が稲門会活動の源流

井垣 和太(昭 37 商)

平成 9 年 4 月発行の「東村山稲門会ニュース第 1 号」に、「原則として毎月第一土曜日、15:00 ～市民センターで行っています。気楽にお出かけ下さい」と市民センターでの月例集会の案内をしております。役員会はその前に 2 時間実施、誰でも参加オーケー。その会員サロンが会員間の「雑学講座」に、また「お花見会」・「納涼会」・「新年会」・「お誕生会」へと発展してきた、東村山稲門会パワーの源流です。会員ファーストです。

早稲田大学バンザイ！

伊川 浩生(昭 53 文)

東村山稲門会の創立 20 周年誠におめでとうございます。この会がここまで発展、継続しているのはひとえに幹事の方々及び事務局の方々の継続的なご努力の賜物です。ありがとうございます。私は設立準備の時に少しだけ関わらせていた者です。設立してからは仕事の忙しさにかまけて離れていますが、地元東村山で母校早稲田大学の同窓会が継続してあるということに心強さを感じています。今後もますますのご発展を祈念しております。

東村山稲門会雑感

池田 孝(昭 40 政経)

20 周年を迎える稲門会も『草創期と守成期といづれか難き』の言葉どおり、夫々に理の有る重みを皆で分かち合い、今後『守成期』からの更なる発展・充実を願ってやみません。『年々歳歳、花相似たり、歳歳年々、人同じからず』(唐詩選・七言古詩の一節) 願わくば、老朋友とユックリー献傾け、“有意義に生き”、“楽しく生きる”『壮』から『老』への“我が人生に悔いなし”といきたいと思います。

私と東村山稲門会

石井 久長(昭 43 法)

平成 16 年に定年を機に東村山に居住し、早速稲門会に参加を希望し、その年の総会に出席しました。未だ第 8 回目位の総会と思われませんが、その盛況ぶりは以前加入していた川崎市の総会を凌ぐ様でした。当時より同好会も増えましたが偏に役員皆様の無償のご尽力の賜と思い、敬服し深く感謝しています。昭和 43 年卒の方々は会長や役員を務めておられますが、私も最低限の協力をしつつ東村山稲門会をエンjoyしたいと思っています。

音楽同好会を盛り上げます

市川 彰彦(昭 36 文)

入会した動機は定かではありません。でも早速テニス同好会に入り、主に久米川コートで汗を流しました。あの時ご一緒だった方の何人かは鬼籍に入られています。そのテニスを辞めた後は音楽同好会に入会しました。その頃はピアノの高橋さんがリードし、ウクレレの富塚さん、ハーモニカの井手さんそれから高橋さんのご主人がクラシックギターで「禁じられた遊びなど」を演奏した事など忘れられません。音楽同好会を盛り上げます。

生涯画学生

一色 泰久(昭 44 文)

学生時代の思い出として、アルバイトと絵を描くことに明け暮れていました。太平洋美術学校に入り浸りで生活費が不足するとアルバイトに精を出していました。そういう私も卒業させてくれる非常に懐の深い大学、早稲田に感謝しております。会社勤めをしながらひたすら絵を描いて来ました。発表の場は画廊での個展が中心です。作品は油絵、水彩画、アクリル画、陶芸作品などです。稲門会では囲碁同好会で元気を頂いております。

「青春の一書」が即「老年の一書」

出田 邦博(昭 45 文)

机上に手垢が付いた暉峻康隆著の「近世俳句」(昭和 37 年改訂 34 版)がある。芭蕉・蕪村・一茶等の解説の学燈文庫である。読み返す度に先生の名調子と共に、学生服の貧しき苦学生の己が姿を思い出す。あの頃の学びがあって老年になった今も、俳句に親しむ事が出来ているのである。「青春の一書」が即「老年の一書」となっている。先生の辞世は「さようなら雪月花よ晩酌よ」という。多謝！故暉峻先生・万歳！我が青春の早稲田。

人生最大の華

井原 徹 (昭 44 法)

わが人生を中間総括すれば、面白かったことの方が、つまらなかったことよりも多かったと思う。早大東伏見の馬場で天皇皇后両陛下と直接お話しできたことや、クリントン米国大統領、ヒラリーさんと会話し握手したことは最大の華だった。もしヒラリー大統領が誕生したら、二人の米国大統領と握手した唯一無二の大学職員になると思う。こんな経験ができたのも、早大職員だったからであるし、早稲田大学が偉大だからだと感謝している。

東村山と私

上 素子 (昭 40 文)

大学の卒業式の数日後に新宿区から久米川へ引越し 2005 年春に小平市へ移るまでの 40 年間、東村山市におりました。65 年当時、駅前にはそば屋など 3、4 軒の商店があるばかりで、市役所近くに青く「農協」とあったのが唯一のネオンでした。子供 2 人が市内保育園から八坂小学校と学童保育に通い、息子はボーイスカウト第 1 団にも入って、休日は子供の様々な行事に出かけていました。東村山は、私が若く元気だった時代の居所でした。

青学卒後に早稲田に学士入学

上原 正行 (昭 53 文)

私は青学を卒業後に学士入学で早稲田へ 3 年次編入しました。従って早大では 2 年間しか学んでいません。外様のような学生生活のため早大時代の思い出は皆様の半分です。ある日、早稲田学報で東村山稲門会を知り入会しました。会の行事の日が仕事や趣味の写真撮影等と重なり思うように参加できません。しかしニュースを読むだけでも繋がっている感じがいたします。酒に弱く、つまらない人間ですが参加の節はよろしく願いいたします。

郷土を見て歩き

江藤 昌明 (昭 27 政経)

自分の住む土地の歴史を知りたいとの要望に応えるため郷土史の会では平成 25 年 4 月から 1 年有余に亘り郷土の歴史の見て歩きを実施した。明治 22 年に野口、回田、久米川、大岱、南秋津の五ヶ村が合併して東村山村が誕生したので、見て歩きも旧五村別に実施した。市内の古寺社、建築物から石仏に至るまで、写真入りの説明資料を作成し配布した。東村山で育った方が少ない稲門会員には市内の歴史を知り郷土愛を深めたものと思います。

稲門会が生活の一部に座っている

伊吹 史郎 (昭 44 法)

“生活の幅を広げたら”の妻の一言で稲門会行事に参加させて戴いたのが、平成 25 年 7 月 6 日に行われた誕生会でした。それを皮切りに、納涼会・総会・新年会そして昨年からはスポーツを楽しむ会に広がっています。京都で、浪人していた私に『2 浪はさせられない』と、当時年間授業料 5 万円の早稲田を両親が受験させてくれたのでした。今日充実した生活を送らせて戴いているのは、諸先輩と両親の御蔭と感謝しております。

山に始まり、山に終わるわが人生

上 幸雄 (昭 47 教育)

中学から山登りを始め、高校で地理部、大学では探検部に所属、今も山で遊ぶ。祝日「山の日」が生まれた今年、私が長年主宰していた NPO 法人を閉じた。やるべきことをやり、後で迷惑になるものは残さないとの思いであった。これからは山で風に吹かれて、“遠上寒山石径斜”と詠う「山行」(杜牧)や“山々の頂に憩いあり”で始まる「さすらい人の夜の歌」(ゲーテ)でも口ずさむか。「山の思想史」で教えてくれた三田博雄氏に感謝。

マレーシアの想いで

植村 正身 (昭 39 法)

もう 30 年以上前になるが、1984 年 5 月に、二度目の海外赴任地であるクアラルンプールのスパン国際空港に着いた。空港建物から外へ出た途端、気温と湿度の高いことに加え、ココナッツの匂いでむせ返るようであった。最初の赴任地の米国ロスアンゼルス空港ではステーキの匂いがしたが、国の玄関口では、それぞれの匂いがあるのだろう。ところで、成田空港に降り立つ外国人は、いったいどんな匂いをかぎ取っているのだろうか。

フルマラソン 50 回以上完走が生涯目標

遠藤 誠 (昭 49 理工院)

サラリーマンは体が資本ということで、35 年間続けているランニングですが、十数年前から健康診断で再検査が当たり前となり、ダイエットも兼ねて、本格的に取り組み始めました。その成果により健康診断結果は改善に向かい、マラソン大会へのチャレンジも始め、今年でフルマラソン 36 回を完走しました。生涯フルマラソン 50 回以上が目標です。何度走っても達成感とゴール後のビールは格別で、海外も含め各地の大会に参加しています。

3 世代 W に向かって

大内 一男 (昭 46 社学)

東村山稲門会会報創刊第 1 号を読み返してみた。巻頭には設立総会後の記念写真が掲載されている。なんとそこに私と共に息子が座っているではないか！何故総会という畏まった会に小学一年生を連れて行ったのか記憶は定かではない。W に慣れさせようという親の魂胆が有ったのかもしれない。その成果か息子は早実中等部から創造理工学部修士まで 12 年間で親の 3 倍もの期間を W で過ごす事になった。その息子がこの 7 月嫁さんをもたらした。

在学中の思い出

大野 恵子 (昭 46 文)

私の大学時代の第二の居場所は、「山歩会」という山登りサークル(商学部地下)だった。北ア縦走時に 27 kg のキスリングを背負った事、台風の豪雨でテントが流されそうになった事、満天の星の下、キャンプファイヤーを囲んだ事も懐かしい。山から下りれば新宿や池袋の安い飲み屋で汗臭いまま飲んだ。鳳凰三山・南ア・谷川岳・八ヶ岳・丹沢と、今でも昨日のように苦しい登りとその先の絶景を思い出す。勿論今でも岳友は大事な宝物だ。

卒後 51 年、感慨無量

岡田 一郎 (昭 40 商)

卒後 51 年、夫婦子孫 14 人の皆健康に感謝。名物講義「国際経済学」で「地球の上に早稲田あり」、「天下一分その一を取れ」を伝授された恩師、中島正信先生の巻紙毛筆推薦状で希望の製薬企業就職を実現。定年後の終の棲家の地で東村山稲門会入会。健康に恵まれ 75 歳の今春まで生涯現役活動を実践。今夏 44 回「中島正信先生を偲ぶ会」には 100 歳の商学部先輩も参加。来る 150 周年「世界の早稲田大学」は生きて確証したい。

東村山稲門会員として

尾島 敏雄 (昭 49 商)

私の会員歴は創立以来に及ぶ。しかし勤労の立場をほしいままにして年次総会への出席のみで終始してきた。今年定年を迎えたが、また別の会社で勤務している。しかし人生先のことを考えると、そう働くばかりではとつくづく思う。地域社会のこともほぼ顧みないできたが、「罰当たり」にならぬようこれからは勤務とうまく兼ね合いを持たせながらも、しかしながら主従の関係を逆転していきたいと考えるこの頃です。

地元稲門会は私の心の拠り所

大曾根 文男 (昭 46 政経)

早いもので本年度で設立 20 年とのこと、おめでとうございます。昭和 61 年に転勤で名古屋から東村山市に転居して来ました。その数年後に東村山稲門会を設立するとの案内をいただき、参加させていただきました。大学時代の友人との付き合い、会社の稲門会もいつの間にか自然消滅となり、次第に早稲田との付き合いが薄れていく中で地元稲門会があることが私の拠り所であり、東村山稲門会のますますの発展を祈念しております。

稲門書道会

大森 平八郎 (昭 40 商)

「書ではなく諸道会なので、気楽に」との勧誘があり、入学間もなく早稲田大学書道会に入会した。当時の 4 年は「和」に優れ、新入生にも気を遣われ温かい雰囲気伝わった。今日まで書が続けられる因となった。今般、書道同好会の開設が決まった。多くの方のご助言に感謝申し上げ、末永く続けることで報いたい。大学の書道会の延長上に本同好会が誕生でき、感慨は一人である。故金子清超・苔花双師に合掌。

学生時代の思い出

岡部 幹郎 (昭 39 法)

入学時、私は「音楽同攻会」(同好会に非ず)に入会しました。多くの作曲家の作品を聴いていくうちに「明るく流麗ではあるがどこか哀愁を帯びた短調の曲のある」モーツァルトの作品に惹かれ、ほぼ全ての分野に亘り聴き漁りました。今も、悩みや悲しみがある時彼の曲を聴くと何故か慰められます。モーツァルトの作品をより多く聴くことが出来たのは、当時、政経学部の 6 階にあった視聴室(ブース)に足繁く通ったためです。

ルールと利便性

尾関 彰一 (昭 49 法)

最近気になることは、自転車の右側通行である。この右側通行をよく観察すると、進行方向の先で右折することが多い。右側通行なら確かに右折しやすい。これは、交通法規のルールより優先すべきと考える価値観に従った行動であろう。その価値観は利便性と呼ばばよいだろうか。迅速性、効率性、負担・コストの軽減なども類似した価値観である。ルールよりも優先すべきと考える価値観に従う限り、右側通行はなくならないだろう。

卒業試験

小野 浩一 (昭 62 商)

1983 年～ 1986 年度に商学部在籍しました。当時の商学部は取得単位に制限があり、4 年でも語学の必修科目を含め 40 単位を残しました。3 年までフル取得しても 36 単位が残りました。就職面接でも面接官や学生から驚きの目を向けられたことを今でも鮮明に覚えています。4 年時の試験は必死に机に向かい、何とか卒業の運びとなりましたが現在でも疲れが溜まった時などは、留年してしまう悪夢を見ることがたまにあります。

「高貴好齡者」の自覚で活動

小野 智 (昭 30 政経)

第 1 回麻雀大会が平成 9 年 8 月 31 日に久米川の雀荘「マーじゃん M」で雀士 12 名が参加して開催されました。その後、田口政登、松永常尚両氏と共に同好会の世話人をして参りましたが、平成 25 年 3 月を以て阿部茂、池田孝両名にバトンタッチしました。現在は足腰の弱体化を感じておりますが、ユニカールというスポーツを約 60 名の仲間と楽しんでおります。今後は己を「高貴好齡者」と自覚し、余熱を出して活動していきます。

卒業後も大学図書館を利用

小山 友希 (平 23 文化構想)

学生時代、珍しい写真集や哲学書などがたくさんある大学図書館にはとてもお世話になっていました。普通の図書館にはない本もおいてありますし、非常に高価な本でも揃っているのが貧乏学生には助かりました。卒業した今でも馬場歩きをして図書館に向かい、早稲田カードで入館して学生に交じって楽しませてもらっています。学生でない今は図書の貸し出しが得られませんが、行くたびにとても贅沢な学生時代だったなあと実感します。

皆様のご支援に感謝

風間 和夫 (昭 30 法)

創立 20 周年おめでとうございます。事情があり創立後 5 年程経てから入会しました。ボニージャックスを迎えての 10 周年記念事業と大学校友会の 125 周年記念行事をまず思い出します。そして幹事稲門会事務局長としての三多摩支部大会と東村山稲門会の 15 回総会が重なり、両運営に苦慮したことや歴代会長の補佐役として無事に務めることができた日々が昨日のように想起されます。皆様からのご支援に心から感謝申し上げます。

矢島 先生

加藤 正俊 (昭 49 商)

私が金融論の矢島先生ゼミにいた時、ある学生が、あんなに成績が悪い学生に何故単位を与えるのかと文句を言ったところ、先生は、では明朝五時に穴八幡に来ようと言い、次の日学生と会いました。そこでは、問題の学生が階段を使って鍛錬していました。

彼は毎朝ああして努力している。彼に不可を付ける訳にはいかない。学生も納得しました。私は人の評価は一面で決めるべきではない、と教えられました。亡き矢島先生に感謝しています。

住みやすい町を目指して

上町 弓子 (平 6 文)

今年より入会させて頂きました平成 6 年文学部卒業のかみまち弓子です。大学時代を振り返りますと、高田馬場の居酒屋さんで、よく喧々諤々、文学部仲間と文学の話しや世の中のこと、どう生きていきたいかの議論をアツク交わしていたことを思い出します。これからは地域でご活躍の東村山稲門会の先輩方皆さまのご意見をお聞きして住みやすい町にしていきたいと思います。東村山稲門会 20 周年、本当におめでとうございます！！

人生における節目とキッカケ

北野 二郎 (昭 46 教育)

人生には誕生日や入学、卒業等誰にも共通する節目があり、新たな目標を探す再出発の機会とも言えます。私は五十の手習いでギターを始め、全く音楽に無縁でしたが、様々な出会いをキッカケに演奏活動をするまでに到りました。リタイヤした今、音楽を通して多くの人達を笑顔にするのが目標です。現在、所沢在住のため、私にとり稲門会ニュースが皆様との心の出会いであり、直接的な出会いのキッカケともなりうる大切なものなのです。

私の北欧旅行記

木原 晴彦 (昭 47 政経)

卒業後 3 年経って会社を辞め、外国へ行く決心がついた昭和 50 年、自分の人間性を磨くために北欧を選んだ。ソビエト経由でフィンランドへ行った。当地は白夜で気候が随分違うのに驚いた。しばらくしてスウェーデンへ行った。沢山の日本人が働いていた。途中パスポートを紛失し、言葉と人格が合わなかったため、再発行されずに帰国するはめになった。羽田空港に着いて、盆踊りをやっている光景が目に入って日本の良さを再認識した。

稲門会の思い出

久保 栄二(昭 46 年法)

20 年前の秋、小手指駅からバスに乗り、早大狭山校舎に向かった。そこで設立総会が実行された。皆さんも私も未だ若く、皆晴々と、いきいきとしていたのを覚えている。その後会は益々発展していったが、当時は市内に未だ大型宴会施設が無く、毎年総会会場探しに苦労した。ある年は市庁舎の食堂で、又ある時はスリッパを履いて立食パーティーをしたこともあった。それ等、古き楽しい思い出である。

東村山稲門会へ早期入会を

倉田 哲也(昭 36 年理工)

私が入会したのは平成 21 年 1 月で現在に至って居ります。設立当初、会員加入のお誘いを頂きましたが在職中のため入会を伸ばしたと、今反省して居ります。現在稲門会の活動を通じて自分にはない学識、職務分野を会員から享受でき、特に海外勤務経験者から諸外国の政治、文化をお聞きし、現在ボランティアとして東村山地球市民クラブで多文化共生活動を推進するために外国籍の方と市民生活を一緒にする上で稲門会での会員交流が大変有益になって居ります。

早稲田との縁

紅松 喬(昭 45 商)

三兄弟の三男ですが、上の兄達も早稲田で中学校位から早稲田を身近に感じていました。丁度早稲田入学の年から東西線の中野―高田馬場間が開通し物理的にも近くなりました。会社を受ける時の人事部の担当者も早稲田の先輩で、入社後も色々な部署で早稲田の先輩・後輩との接点がありました。家内も同じ会社の稲門出身で家内の姉も早稲田。今また東村山で稲門の方々にお世話になり、早稲田との縁は半世紀にわたって続いています。

知人の”輪“

紅松 容子(昭 45 教育)

主人と一緒に入会したのは平成 14 年春。5 月の会報にお花見の席で挨拶している若かりし写真が載っています。それ以前に何回も入会案内が送られていましたが、文面に会社での私達の大先輩であった井垣氏の名前を見てそれならと入会しました。故森田茂夫氏の夫人や月森夫人とはゴルフで、滝来京子さんとは音訳の会で、他にも道行けば見知った顔に出会い、地元での知人の”輪“が広がって行くのは嬉しい限りです。

今年卒業 50 年

黒田 祐司(昭 41 商)

臆するも依頼を杖に振返る今年卒業 50 年 大学の短き時をどう過ごすお国の為は何をする雄飛する外交官か商社マン外交官は柄でない 会計に貿易実務簿記経営美人揃いの英語会 真夜中にゼミで触ったコンピューター部屋一杯のトスバック 教室に吉永小百合どこの席後姿は普通の子 大学の学費値上げに端発し学園紛争激化する 暴力で革命叫ぶ革マルの角棒マスクヘルメット お蔭様遂に卒業式もなし ああ早稲田心の古巣わが早稲田。

地域社会に居場所が出来て・・・稲門会に感謝！

小亀 輝雄(昭 34 商)

東村山稲門会が設立 20 周年を迎え、設立時から会の運営に携わってきた一人として、感慨深いものがあります。退職後稲門会のお蔭で地域社会に多くの友人が出来、多才な人材の皆様のお蔭で趣味も広がり、充実した 20 年間を過ごすことが出来ました。私も傘寿を迎え、残された時間はそう長くはないと思いますが、稲門会の諸行事や同好会に参加させて頂き、前向きな気持ちを持って生きて参ります。これからもよろしくお願い致します。

稲門会が縁で易学師範鑑定士 1 級を取得

小久保 清(昭 36 法)

創立総会に参加した当時のことが昨日のように思い出されます。当初数年間は会合に参加しておりましたがいつの間にか足が遠のいてしまいました。稲門会での唯一の思い出は懇親会で長年易学をやっている先輩に出会い興味があれば教授するということになり、有志で研究会を持つことになり教えをいただいたことです。私はその後日本易学協会の通信教育を続け昨年師範鑑定士 1 級の資格を得ました。これも稲門会とのご縁と思っております

東村山稲門会を楽しむ

小菅 宏(昭 39 理工)

退職後、近くに知り合いを作りたいくて、中学からの趣味であるソフトテニスを始め、同じクラブの江藤昌明さんに誘われて入会しました。役員会の会場予約を依頼され、やがて役員になりました。平成 24 年の新年会で、野田直・淑子夫妻とお知り合いになり、福田昇七さんと一緒にパソコンの勉強会を始めました。その後、パソコン同好会を立ち上げて、日常的にメール、ワード、エクセル等を使われる会員と一緒に学習しています。園芸の会とテニス同好会にも入っています。その他のイベントにも可能な限り参加します。

東村山稲門会設立 20 周年に向けて 小林 俊治(昭 53 社学)

今から 20 年程前稲門会設立の話を、当時市役所職員だった水野さんから伺い、仕事でモンヴェールと付き合いがあったことから設立パーティの準備を手伝ったことが、稲門会と私の出会いです。その頃、水野さんと稲門会は早大卒業生の仲良し会にするのではなく、各自が持つネットワークを活かし地域へ貢献する組織にしたいと熱く語り合ったことが昨日のようです。20 年経ちそれが雑学講座等の活動につながりうれしく思っています。

記念会堂前での勧誘がご縁に 小松原 茂男(昭 42 法)

ふと思うに、50 数年前の卒業式の後、記念会堂前の校友会入会勧誘テーブルに立ち寄らなかったら、当稲門会には入会していなかったでしょう。近頃は親族・恩師・友人、知人が次々と鬼籍入りし、身の周りがそぞろ涼しくなって参りました。今日までビジネス一辺倒で、地域活動から遊離した生活をして来ましたが、今後は、”枯れ木も山の賑わい”と自認し乍ら稲門会員の皆様・近隣の皆さまの諸活動の仲間に入れて頂きたいと存じます。

祝 東村山稲門会創立 20 周年 小森 敏孝(昭 51 教育)

知人と花見をしていた。ふと目を遣ると別の集団が「早稲田大学校歌」を高らかに歌っている。楽しそうだった。幟から東村山稲門会とわかり、その存在を知った。今から 20 年前のことである。大学を卒業し 40 年。早い。そう考えると、大学の 4 年間は早いのも仕方ないか。1 年生のときに何度も退部を考えた「応援部」で 4 年間過ごしたことが、社会に出たときの支えになった。フレーフレー早稲田！フレーフレー東村山稲門会！

早稲田の思い出 坂本 英夫(昭 38 商)

学生時代はゼミ、合ハイ（今では死語）、就活などいろいろあったが、特に印象深い出来事は 2 年生の 1960 年である。左右陣営激突の反安保闘争（当時岸信介内閣）で 6 月 15 日の国会突入、翌 16 日の自然成立で大きな挫折感を味わったこと。秋は早慶 6 連戦で安藤元博投手の 4 連投で優勝し仲間と朝まで飲んで騒いだこと。また入場券購入のため徹夜で並んだり、夕暮れの神宮球場から大学までの提灯パレードも忘れられぬ思い出である。

東村山市が終の住処に 崎山 裕子(昭 52 教育)

22 年前、自然豊かな環境に惹かれて、縁もゆかりもなかった東村山に引っ越してきました。ほどなく、その時職場の上司だった小亀さんに「稲門会を立ち上げるので手伝って」と声をかけていただきました。会発足後は会計の手伝いをさせていただきましたが、たくさん先輩に出会え、（若かったので！）可愛がっていただき、地域に馴染むことができました。ここ 10 年ご無沙汰していましたが定年を機にこれからまたお世話になります。

母校のことが気になって夜も眠れない 迫田 実(昭 52 社学)

学部卒業と同時に母校専任職員として就職し、退職するまでの約 37 年間、大学関係者として内部から母校と関わってきました。この間、校友の方々からの叱咤激励を種に母校は発展し続けてきました。退職後、さらに住居を関西に移した今、校友のみなさんが母校に寄せる期待・気持ちが手に取るように理解できるようになりました。母校がすべての分野で輝き続けるよう応援しましょう。東村山稲門会創立 20 周年おめでとうございます。

雑 感 佐藤 喜一郎(昭 56 政経)

早稲田大学は私にとって、市内で暮らしている今の私の起点であり、原点であると言えましょう。大学ゼミ仲間に啓発され商社に入社、大学で出会った女性と結婚、子供も同じ大学卒業と、早稲田とは家族にとって切っても切れない縁を結ばせてもらった場です。定年近くになり、格差等課題がある中、次代を担う世代の為に何が出来るかと考えるこの頃です。東村山稲門会がますます地域に根ざし、早稲田ファンが増える事を切望いたします。

教養と教育の無いこの頃 塩田 典男(昭 35 政経)

6 月に傘寿を迎えました。足腰が悪く遠出は難しく、多くの催し物の案内に応じられないのは残念。毎日が暇で教養と教育が無く（今日用事が無く、今日行く処が無い）一日を過ごしている。若い盛りは良く働き飲み歩き、一日の睡眠は 5 ～ 6 時間。今は取り戻さんかのように、夜 9 時に就寝し、起床は朝 8 時、昼寝が約 1 時間で 12 時間寝入っている怠け者。ボケが来ているのは確かだが、未だ認知症にはなっていない。何とかしてくれ！！



1996 設立総会



1997 第2回総会



1998 第3回総会



1999 母校にて



2000 お花見



2002 納涼会



2004 旅行同好会



囲碁同好会



俳句同好会



東村山稲門会20年の歩み

- 1996 11月 東村山稲門会創立総会開催（所沢キャンパス）
初代会長に大西幸夫氏就任
- 1997 1月 東村山稲門会会報 創刊号発行
2月 東村山稲門会会則施行
4月 東村山稲門会ニュース創刊
ポストパースン制度発足
郷土史の会発足
5月 ウォーキング同好会発足
8月 麻雀同好会発足
9月 ゴルフ同好会発足
- 1998 長野冬季オリンピック開催（2/7 - 2/22）
3月 園芸の会発足
5月 テニス同好会発足
4月 第一回お花見会開催
- 1999 1月 第一回東村山市民雑学講座開催
囲碁同好会発足
7月 第一回納涼会開催
- 2001 校友大会を稲門祭に改め開催（10/21）
10月 三多摩稲門会連合会の当番幹事として大会運営
- 2002 米同時多発テロ勃発（9/11）
2月 俳句同好会発足
- 2003 地上デジタル放送開始（12/1）
1月 カラオケ同好会発足
11月 第2代会長 山下邦康氏就任
5月 旅行同好会発足「第一回旅行 塩原温泉行」
- 2004 10月 第一回お誕生会開催
8月 東村山稲門会の歌 歌詞制定。
11月 東村山稲門会創立10周年総会開催
「ボニージャックスと歌おう」開催
東村山稲門会の歌をカセットテープで全会員に配布
創立10周年記念事業として会員からの基金163万5千円
第3代会長 三宅良太氏就任



2006 創立 10 周年



東村山稲門会20年の歩み

2007

早稲田大学創立125周年記念式典開催 (10/21)

3月 第50回雑学講座開催

5月 音楽同好会発足

9月 早稲田大学125周年事業・会員募金寄付
(4年間合計125万円)

10月 年会費を3,500円から5,000円に改定

11月 柏崎稲門会に対し中越地震被災募金活動

2008

リーマンショック (9/15)

11月 第4代会長 小亀輝雄氏就任

2010

1月 新年会を新設のサンパルネコンベンションホールで開催

11月 三多摩稲門会連合会の当番幹事として大会運営

12月 第1回映画会開催 (第70回雑学講座 若草物語)

2011

東日本大震災勃発 (3/11)

4月 東日本大震災により恒例のお花見会中止
東日本大震災に当会として10万円を寄付支援

6月 東日本大震災に47名の会員108万円寄付支援
東村山稲門会ホームページリニューアル

2012

Waseda Vision 150 発表 (11/15)

4月 早稲田スポーツを応援する会発足

7月 パソコン同好会発足

2013

11月 稲門会ニュースが発行200号に達する
第5代会長 當間昭治氏就任

2014

WASEDA'S Health Study 発足 (8/1)

4月 グローバルサロン・英語の会発足

2015

6月 同好会活動の創立20周年記念企画事業を各々策定

11月 創立20周年記念事業実行のため5委員会発足

2016

3月 東村山稲門会ホームページリニューアル

4月 多摩湖町地区懇談会発足

5月 本庄～早稲田100キロハイク応援ブース設置
女子会発足

8月 書道同好会発足

9月 初代会長大西幸夫氏逝去

2007 新年会



2008 総会



2010 誕生会



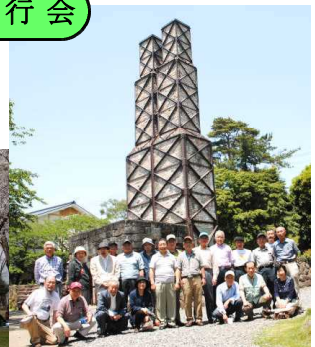
2011 納涼会



2012 新年会



2013 旅行会



2015 総会



2015 新年会



2014 お花見



父に次いで早稲田に

重原 眞智子 (昭 30 文)

昭和六年、私はかつて日本の植民地であった台湾台北市で生まれた。敗戦後日本人はすべて本国へ送還され、初めて私は祖国の土を踏んだ。その後出征中の父も無事生還でき私は早慶の二校を受験することができた。慶応一次パス、二次面接日「三田」は森閑と人影が皆無だった。なんと私は試験日を間違えていたのだ。勿論不合格。残るは早大のみ、幸運の女神がやっと微笑み、父の母校そして私の母校となった早稲田にたどりついたのです。

アメリカ人の息子

関 一誠 (昭 43 教育)

娘が渡米して 20 年になる。いつか帰ってくるだろうとグランドピアノはそのままにしていた。突然、結婚したいとの報に驚かされたが、1 年後、彼を伴って帰国した。息子と初めての対面である。幸い誠実な彼を見て一安心。今や国際結婚は稀有なことではない。それでも、我が娘となれば反問しきりである。そこで、待ち人のないピアノを知人に譲ることにした。ピアノを嫁入させたことで、やっと子離れができたと言点した。

死ぬ前に一度は

相馬 信一 (昭 36 文)

昨秋、仏文卒の級友と二人でフランスへ行った。当方は初渡仏、仏文卒の面目から一度はと思って敢行。彼の知人（仏人）宅の側にホテルを取り 2 週間程パリや近郊を巡った。時々知人宅のデナーに招かれフランスの家庭料理を堪能。ゴッホやバルザックの家、ルーブル等、本のイメージ以上の実物の姿に感動した。帰国直後テロが発生、見たようなレストランが襲撃され大ショック。一足違いの際どい事件で、一層忘れ難い老人旅行となった。

早稲田大学、稲門会に感謝

高沢 壽佳 (昭 50 理工院)

東村山稲門会には発足以来加入させていただいていますが、これまで、ご案内いただいている会合や企画等に参加できていません。皆様にご苦勞されているのに申し訳なく思っております。大学卒業後も、先生方に仕事のご指導をいただいたり、職域の稲門会で交流を深めたり、早稲田大学 OB ということが大いに役立ちました。常勤の仕事も終わりましたので、少しでも稲門会の活動に参加させていただければと思っております。

稲門会と私

高橋 正夫 (昭 35 政経)

10 年間住んだ香港から帰国してから東村山稲門会の存在を知って、2005 年に入会しました。会社仲間との付き合いとは異なり、多様で経験豊富な会員と知り合うことが出来、今までの人生をリセットできたような充実した日常を迎えることが出来たのは稲門会のお陰です。世話人をさせていただいているウオーキング会や旅行会ではさらに親密な交流の機会が得られていることも気持ちの張合いになって、老化対策にもつながっています。

神輿洗い 遠い昔の思い出

高部 素行 (昭 35 理工)

5 年生の夏村祭りの最終日、神輿を担いで川に入る。家々を回った後、神輿を仕舞う最後の行事。泳げない俺は深みに入っていく前に逃げ出す作戦だったがタイミングが遅れ、ずるずると深みまで押し込まれた。しまったと思ったがとき既に遅く、神輿につかまったら足が届かない。でも、最後に神輿は水の中で廻すのだ。神輿の下で仲間の足と白い褌はいまでも目に浮かぶ。必死に浮き上がろうともがいた。先輩が俺を救い上げてくれた。

祝 設立 20 周年

高柳 剛 (平 3 社会学)

私は職場の先輩に勧められて東村山稲門会の設立時から参加させていただいております。当時は東村山駅西口のサンパルネのホールもなく、第 1 回の総会を所沢キャンパスで開催したことがとても懐かしく思い出されます。母校支援及び会員相互の親睦と研鑽を進めると同時に、東村山市の文化向上に寄与するという当稲門会の設立の目的に沿って、稲門会活動がこの 20 年の間にますます充実・発展していることをうれしく思っております。

20 周年を迎えて

滝川 桜子 (昭 40 文)

設立準備委員会、設立総会に参加しつつも時間的な余裕もなかった私は、10 数年間名ばかりの会員だったが、地域に目が向き始めた時の偶然の出会いから、勧められた会に出席したことで、会計監査を引き受けることになり会の活動に参加し始めた。同好会で楽しんだり、学んだり、またお誕生会を担当したりしていろいろな人と知り会ったり、触れ合っている間に近頃は、私にとって稲門会は地域の大切な楽しい居場所となってきている。

決意新たに

滝川 正義 (昭 40 商)

当会 20 年の発展を支えた幾多の先達へ敬意を表すと共に 21 世紀を乗り切るべく現会員の皆様が設立時の熱い思いを改めて心に刻み新しいスタートとして決意新たに結束を固め地域社会の発展に貢献しましょう。

ボールを追って

滝来 京子 (昭 41 教育)

飛んでくるボールを打ち返す難しさ。相手の動きと反対に抜いて返球した時の嬉しさ。ロブで頭上を抜かれた時の悔しさ。パートナーを代えてのダブルスの試合の面白さ。

こんなテニスの醍醐味に、暑さにも、寒さにも、足の痛さにもめげず、コートに立つ。

年一回の恒例の合宿。プレーの後のビールの美味しさと、仲間と語らう心地良いひと時は最高。稲門会のテニス同好会は、私の生活の中の楽しみの一つです。

私とスキー

田口 政澄 (昭 36 理工)

出会いは 37 歳、札幌に転勤になった時である。子供達が志村けんの東村山からの友達だと歓迎されすぐ仲間入りしていたが、スキーが出来なくて困っていた。早速近くのばんけいスキー場のクラブに家族で参加し皆で何とか滑れるようになった。定年後札幌在住の昔の仲間からの誘いで再開し、近年は毎 1 月末札幌国際スキー場に出かけている。でももう歳だ、健康に留意し来年また狭山スキー場で調整して出かけたいと思っている。

終戦子の思い

武井 勇治 (昭 44 教育)

1868 年戊辰戦争・1877 年西南戦争・1894 年日清戦争・1904 年日露戦争・1914 年第一次世界大戦・1931 年満州事変・1937 年盧溝橋事件、日中戦争・1939 年ノモハン事件・1941 年ハワイ真珠湾空襲・1945 年ポツダム宣言受諾。明治維新後、昭和 20 年の敗戦までの 77 年間は戦争の絶えない時代であった。以後 2016 年までの 71 年間は日本は戦争をしなかった。今後も続くことを強く願います。

テニス同好会の世話人も経験

田島 隆夫 (昭 37 法)

私は東村山稲門会設立の翌年の総会から出席し、稲門会歴は 19 年になります。その前年に東村山市に移転し、地域の人との交流を望んでいたのでタイムリーな入会でした。以来、同好会活動に参加し、現在もテニスと囲碁を続けています。テニスは、数年間世話人をしたので思い入れもあります。現在は稲門会活動も多岐にわたり、内容も格段に充実してきています。当会は優秀なスタッフも揃っており今後さらに発展して行くことでしょう。

早稲田大学書道会の仲間

田代 光一 (昭 38 法)

早稲田大学書道会の仲間の一人、政治家になり揮毫を頼まれるからと入会した小淵さんが平成の元号を掲げて 28 年。共に学んだ大森平八郎さん (昭 40 商) は銀行を勤め上げ、小学校や介護施設で書道を教えるボランティアとして好評ですが、この度、東村山稲門会に書道クラブ開設の申請をされ、許可されました。両氏共、金子清超先生の門下生ですが、筆ペンやボールペンでの練習も可能です。お子様やお孫様のご参加も大歓迎です。

近況

千葉 俊二 (昭 47 文)

昨年から入会させていただきましたが、いまだ現役なもので、このところ毎日忙しい日々を送っております。現在、中央公論新社から刊行されている『谷崎潤一郎全集』全 26 巻を編集しており、来年の 6 月までつづきますので、なかなか行事にも参加することもできません。この 9 月 10 日発売の「中央公論」10 月号に教え子で、芥川賞を最年少で受賞した小説家の綿矢りさと対談いたしました。ご笑覧いただければ幸甚です。

価値観をどこに見出すか

當間 昭治 (昭 43 法)

平成 8 年 11 月の当会設立総会に参加したのが現役時代の 51 歳、それから 20 年が経過し私も 71 歳となりました。この 20 年間、稲門会には数々の思い出があります。そこで最近強く感じるのが稲門会という「価値観」です。諸先輩のご努力のお陰で、当会の活動は他稲門会や市民・行政からも一目置かれる存在となりました。こうした中で、私にとって稲門会は財産となり、大きな「価値観」として位置付けられています。「稲門会に入会し活動して良かった」という声が会員の皆様から聞かれ、「価値観」として定着することを願って止みません。

東村山に住んで

當摩 照夫(昭 45 理工)

東村山の現住所に住み始めて既に 40 年を越えた。あつと言う間の様な気もする。緑豊かでまだまだ昔の雰囲気が残る町である。ここで家族と共に過ごし、一番賑やかだった頃は 7 人家族と犬一匹。それが今は夫婦 2 人と犬 2 匹。寂しくなったが、40 年間変わらないのは狭い庭を埋め尽くすバラの花である。何でそんなにバラばかりなのかと良く聞かれるが、自分でも不思議。しかし、良く咲いた時のバラの花は、文字通り最高。どんな花より美しい。

素敵な朝の始まり

當麻 光子(昭和 57 文)

朝のジョギングを始めて 15 年程。早朝 5 時過ぎに家を出ます。最初は 500m 離れたセブンイレブンでギブアップ。人間の体の適応力は不思議。今は 15k 程なら疲れを感じないで走れます。私のホームコースは多摩湖周辺。四季の移ろいを敏感に感じながら、そして走っている時の”無心”を大切に毎朝楽しんでます。よく、健康のために?と聞かれますが、いえいえ違います。健康だから走れるんです。感謝しながら明朝も走ります。

稲門会との出会い

戸田 志郎(昭 43 法)

稲門会との出会いは、卒業 25 年のホームカミングデイでの現会長當間昭治さんとの再会であった。創立総会から参加で、すでに古参会員である。當間邸での夏の納涼会、10 周年でのボニージャックコンサートと『東村山稲門会の歌』。誇るべきは「ニュース」の毎月発行とポストパースンによる配達体制。個人的には「フクロウ通信」の投稿や雑学講座での講演、忘れてならないのが、テニス同好会での練習会や合宿での交流である。

学生時代

富澤 文雄(昭 48 理工)

入学時は、学生運動が盛んで早稲田でも全学バリストで、6 月頃まで授業がなく、東大受験がなく東大病の人が多き時期でした。また、既に卒業したのも知らずに吉永小百合に会いに、戸山キャンパスでサッカー授業を受けたのが少ない 1 年次の思い出です。一方、授業がないことに喜んだのは父でした。朝、夜とその日の家業の準備と整理で、授業再開後もその合間を縫って学校に行く生活が後継ぎの兄が復帰するまで 2 年半ほど続きました。

思い出の多い東村山稲門会

豊田 友吉(昭 29 政経)

東村山に移ったのは昭和 36 年(1961)でした。何回かの転勤で 10 年間くらいは留守にしたこともありましたが、今年(2016)2 月に栃木県に移るまで、54 年余り過ごしました。退職後は稲門会の皆さんに大変お世話になりました。宴会の時はおいに飲み、いつも気分よくご機嫌で帰宅したものでした。東村山稲門会はいいい思い出ばかりです。今後の益々のご発展をお祈り致します。

旧 懐

仲 滋(昭 53 文)

世の中の変化が増々目まぐるしくなる一方で、齢を重ねつつある私たちはゆっくりとした、時として殆ど止まっている、或いは逆行する時間を過ごす様になるのかも知れません。ただ、いささか未だ間がある気もしている中で、日々雑事に追われ過ぎしております。さて旧懐の情と言うことでは、同居している 95 歳になる父が収集したクラシックカメラと蓄音器のコレクション、何かの折にご披露する機会があればとも思っています。

早稲田学報の「稲門だより」に注目

中川 敏郎(昭 31 商)

長年、早稲田学報を読んでいるのですが、この中の「稲門だより」に特に注目してきました。最近では東村山稲門会のイベントの開催時の報告記事も掲載されるようになり、喜んでいます。他の稲門会に比べて充実しているようにも考えられます。

南国土佐を後にして

鍋島 高明(昭 34 政経)

南国土佐を後にして、都に来てから 60 年、秋津に住んで半世紀。当時は北多摩郡東村山町南秋津と申し、人口は 3 万に満たず。秋津駅は電車が着くと駅員がやおら鎖を開ける仕掛け。駅前にはうどん屋が 1 軒。銭湯は電車で所沢か清瀬へ。公衆電話はなく、緊急時(風邪で欠勤など)は駅の電話を借りた。地面は借地、上物はわが名義。それに 5 坪の公衆道路もなぜか、わが私有財産。新聞広告で見つけた秋津が終の棲みかとなりけるかも。

玉川上水の思い出

成田 延雄 (昭 28 理工)

稲門会入会の初めのころ、雑学講座で玉川上水の話がありました。数人の有志で東京都羽村市の多摩川の取水場から、溪谷緑道を西武拝島駅に向かっておしゃべりをしながら歩きました。穏やかな川の流れと小鳥たちのさえずりなど、都会の騒音から離れて、のんびりとした気分を味わうことができました。玉川兄弟の上水開拓の苦労など思いながらのハイキングだったと思います。

我が早稲田の記憶

南湖 修一 (昭 48 商)

昭和 44 年入学時、本部及び第二学生会館を過激派学生が占拠、機動隊導入、学内ロックアウト、一般学生は自宅待機、試験はレポートとなる。卒業年の昭和 48 年もその前にロックアウトがあり、卒業試験もレポート。この年の入学式も過激派学生乱入で中止に。在学 4 年間野球部は六大学野球で 1 回も優勝できず。我々世代はこんな体験しか得られなかった。

東村山稲門会@電腦同好会…!?

野田 直 (平 7 商)

2012 年の参加より楽しく交流をさせて頂いています。中でも会員の福田、小菅両氏とは、参加当初より個人的なパソコン勉強会を開き、後の PC 同好会設立へと繋がりました。あれから 4 年、参加者の PC トラブルを解決する中で、多くのノウハウが蓄積されました。20 周年イベントのみならず、会への参加は随時受け付けています。PC トラブルには時に思わぬ出費がかかるもの。日々のお悩みを同好会で解決して頂ければ幸いです。

東村山庭先きや多摩湖

野中 昭夫 (昭 32 商)

多摩湖町に住んで 40 年。雑誌の仕事に追われての歳月はただ眠るための家でした。フリーランサーになれて、東村山の街をユックリ歩き、旧街道、寺社、街角の石仏等に出会えて嬉しくなった。特に稲門会の誕生会に参加したら、有志の方の紹介で同じ町内にある下宅部縄文遺跡の漆製品などの出土品を撮影させてもらい、ご先祖さまの温もりを感じました。東村山庭先きや多摩湖 いい所です。

東村山稲門会に入会して

野村 茂樹 (昭 46 教育)

会社勤めをしている時も稲門会はありました、やはり同じ大学の卒業生という事も有り会員同士すぐに打ち解けて、楽しい時を過ごさせてもらった。未だ現役の時に東村山稲門会への入会案内が来て、迷わず入会しました。定年後も地域の稲門会メンバーと、テニスを通じて歳を重ねていければと思っています。テニス同好会の世話人も役員会に出る様になり、役員の方々の苦労を見て、なるべく会の行事には参加するようにしています。

道南を走る

羽倉 明彦 (昭 56 法)

法学部のゼミは繋がりが薄いと言われますが島田征夫先生の国際法ゼミは別格で、退官された今も卒業生を集めて、毎月イベントがあります。今年 7 月「江差町長が稲門で、江差線廃線後、町を盛り上げるためマラニックを企画する、手伝って」と言われ江差～松前～木古内、約 103 キロを 2 日でテストランニングしてきました。先生は車でポイント毎にサポート。師弟関係はどこまでも続きますが学生に戻ったようで楽しい一時でした。

俳句と歌の日々

波多野 敏治 (昭 43 文)

昨年末に東村山に引っ越して来ました。新天地での知人・友人作りにと今年の 1 月から稲門会に入会しました。俳句と歌が趣味ですので、早速「俳句同好会」「カラオケ同好会」に参加し井垣さんや南湖さんにお世話になり楽しんでおります。俳句は月 5 回ほどある句会の作句に日々四苦八苦。歌は声楽、シャンソンのレッスンに目下挑戦中です。サンデー毎日の日々、俳句と歌で生きがいを感じながら、充実した余生を過せればと思っております。

東村山稲門会に寄せて

原田 道昭 (昭 53 理工院)

東村山に移り住んで 5、6 年経った頃、東村山稲門会が設立されました。稲門会の設立に遭遇するとは思いませんでしたが、学生時代に味わったような早稲田精神がほとばしる環境を再び味わうことができました。あれからもう 20 年が経ったかと思うと、本当に光陰矢の如しです。仕事が優先して、稲門会の活動にあまり参加できない状況ですが、一員として今後も東村山稲門会の発展を見続けたいと思います。

今夏に南アルプスを縦走

樋地 正秀(昭36政経)

今夏7月の梅雨明け直前に、南アルプス北岳～農鳥岳と3,000mを越える5ピークを縦走、人の少ない山を楽しんで来ました。年とともにしんどくなりますが、まだまだ頑張りたいと思います。創立20周年おめでとう！

雑感

比留間 光信(昭31法)

東村山稲門会も二十歳を迎えて御同慶のいたりで御座居ます。私が二十歳と言いますと大学2年目ですが、入学すると体育の実技があり、体育部に入るとこれが免除される制度があることを知り、早速、とある運動部に入部しました。監督並びに先輩方の御指導のもと練習に励み、ある程度基礎もかたまり、更に飛躍しようと努力している時期でしたので、毎日道場に入り浸りでした。現在の健康はその時の鍛錬の賜物と思っています。

あだ名「博士」の学生が真実の「博士号」を取得 深瀬 聡(昭51理工)

大学生の頃、東京駅近くの喫茶店で調理助手のアルバイトをした。何の技術も無い私を何故採用したかは、暫くして判明した。オーナーが早稲田の先輩であった。ひょっこりひょうたん島の記憶がまだ鮮烈に残っていた時代、私は「博士」のあだ名で呼ばれた。その後オーナーが亡くなられたとの報に、奥様に手紙を差し上げた。当時のあだ名の話と共に博士号を取得した旨を書いたところ、本当に博士だったのですね、とお返事をいただいた。

碁盤の石は人生の縮図

福田 晃(昭38教育)

囲碁に興味を持つようになった契機は、早稲田大学の専攻科(国語国文学)へ通っていた頃である。冬の寒い日にも関わらず、通りに面した碁会所の窓越しに、何時も熱心に見物している人たちを目にしたからである。趣味として始めた碁の世界を突き詰めていけばいく程、人生の縮図を連想させる。碁盤の石は打ってみなければその結果を判断するのは困難。それは正しく人生が、どの様に展開していくのか全てを理解できないのと同通する。

多くの試練を乗り越えて

福田 昇七(昭36理工院)

「神さまは乗り越えられる人にしか試練を与えない」という言葉に出会った。顧みて色々な試練を超えてきた積りだが、本当は超えられる試練がきっと未だ他に沢山あったのではないかと思います。考えさせられる事が多くある。もっと多くの試練を与えられ、越えていたら、もう少し充実した人生が送れたかも知れない。今となって残念な気がします。後の祭りか！ いや、これから大きな試練が負いかぶさって来るのか！！

母校に学ぶ

藤井 省(昭52理工院)

新入会員の藤井です。東京・西東京市(保谷)生まれ、理工・工業経営卒。よろしくお願い致します。5年前からエクステンションセンターで考古学関係の講座を受けています。週1でキャンパスに行き母校の先生の話聞き、夏には先生に縄文遺跡を案内して頂き、学生時代に戻った気持ちで新しいことを学び楽しんでいます。今年10月には会社人生を完全リタイアしたので、しばらくは趣味の一人旅、夫婦旅を楽しみたいと考えています。

創立20周年に寄せて

藤澤 博恭(昭29政経)

東村山稲門会とのおつき合いは随分と長い。草創期大西会長の頃の入会ですから、退職前から老後の大半の20年近く稲門会と共に過ごした事になる。楽しい思い出は限りなくありますが、「雑学講座」の講師を初回と76回の二度を務めさせて頂いた事、また三宅さんのお勧めで「園芸の会」を立ち上げた事等々、特に印象深い事がありました。素晴らしい知己を得て、充実した余生を過ごし得た事は東村山稲門会のお陰と感謝あるのみです。

早稲田には足を向けて寝られない

堀田 秀夫(昭38文)

専攻は帝政ロシア史。当時ロシアの名がつくだけで就職口なしの我が国の悪風習。開き直り卒業論文に専心。悪戦苦闘し800枚の論文に仕立てあげる。卒論審査の時、西欧封建社会研究の権威、鈴木成高先生が『学術賞に値する。推薦状を書きます。』と言われた時には驚愕仰天。翌年卒業式で総長大浜先生は『汎スラブ主義の研究』に小野梓賞と大隈奨学金を下しおられました。親子孫娘三代、大学のお世話になり、早稲田なくして我なし。

忘れ物の杖

前田 恒文(昭 51 文)

この春入会の新人です。どうぞよろしくお願いいたします。出身の佐賀には私学は早稲田という空気があります。在学した 1970 年代は学内が乱れて学生らしい思い出もありません。それでも今こうして諸先輩と交流の機会を得て有難く思っています。納涼会では声を揃えた”都の西北 “” 紺碧の空 “大合唱。皆さん元気になってお帰りのご様子でした。これぞ「東村山稲門会」の” 効能 “でしょう。閉会後会場に一本の杖の忘れ物がありました。

稲門会に参加して

町田 和夫(昭 53 理工)

稲門会に参加して、色々な経験、様々な経歴、人柄を持つ方々と出会うことができました。ウォーキングの会の鎌倉散策、墓参り、郷土史の会の近隣を始めとする史跡回り、英語の会の海外の旅行体験記のお話など貴重な体験を持てました。また、市内に OB・OG の方が 1,200 人余り在住であることを知り心強く思いました。今後も皆様と様々な体験ができることを楽しみにしています。

今夏の納涼会開催時に入会

町田 光高(昭 47 教育)

8/11 の納涼会の時に入会させていただきました、町田と申します。会からは、以前からご案内をいただいておりましたが、なかなか踏ん切りがつかないで入会せずにいました。今回、同じマンションに住む田代さんが会員であることを知り、納涼会にご一緒させていただき入会となりました。最近(定年後)は、地域のラジオ体操会に入会し、健康維持に励んでいます。今後、皆様と交流をもち、より楽しく過ごしたいと思っています。どうぞ、宜しく願い申し上げます。

大教室の記憶

松井 淳(平 8 理工院)

早稲田で一番印象に残っているのは大教室での授業です。当時是一个の教室に 100 人ぐらい生徒がいて、先生がシートにペンで「板書」したものをスクリーンに投影する形式でした。多くの先生は予めシートを用意していましたが、中にはその場で書く先生もいるわけです。難解な数式を太いペンでチョコチョコ書くものだから全然読めない。試験の時は大変困りましたが厳しい状況下でもなんとかする根性(早稲田魂?)は鍛えられました。

脊柱管狭窄症を治療中

松澤 宏(昭 39 政経)

東村山稲門会創立 20 周年おめでとうございます。当会に入会した時は失念しましたが、数々の事業のうち少数ですが、年 2 ～ 3 回の参加で会員を維持している心算です。在学中、林先生の国語学、木村・杉先生の体育の講義で得た事柄が社会生活で活かされています。私の近況は、第 4、第 5 脊柱管狭窄症で治療に 2 年半程を費やし、今はゆっくりですが普通に行動できるようになりました。

時宜を得た稲門会旅行に満足

松永 常尚(昭 30 法)

去る五月、数年振りに稲門会の旅行同好会に参加しました。お陰様で大変楽しく、時宜を得た旅行企画で大いに満足の思い出となりました。只やはり時の流れか参加メンバーが大分入れ替わっていたのに、己の年を考え一寸淋しい思いがしました。23 年振りに訪れた上田城、川中島古戦場跡、小諸懐古園等があまりにも観光化、商業化されてしまっていることに何か言い知れぬ違和感を覚えて残念な思いがしました。

ニュース 231 号「稲門会の思い出」の続き

三宅 良太(昭 36 商)

「東村山稲門会の歌」は創立 10 周年に向けて歌詞を募集し、数人からの応募作品を幹事の當摩彰子氏に纏めて頂き、微修正の上完成。ボニージャックスのキャップ西脇久夫氏に作曲をお願いし出来上がりました。次に同好会ではゴルフ(井垣和太氏、堀田秀夫氏)、麻雀(田口政登氏、小野智氏、松永常尚氏)、ウォーキング(町田和夫氏)、俳句(井垣和太氏)等主に世話して頂き、楽しい時を過ごしました。改めて御礼申し上げます。

騒々しい卒業式

宮元 祥吏(昭 44 理工)

卒業時の昭和 44 年理工学部は、新しく新大久保にコンクリートの校舎が建てられた早稲田の雰囲気のない場所でした。卒業式ぐらいは本部大講堂で開かれ、伝統的な早稲田の雰囲気の中で卒業を祝うことを期待しておりました。実際は、学生運動が各大学で盛んな頃で、卒業式の途中で一部学生による妨害(ニワトリが飛び、卵とびかう)がある実に賑やかな騒々しい卒業式に終わりました。印象深く今でも忘れられない思い出です。

近 況

森川 進(昭 62 政経)

学校でてから数十年、会社員勤めをしながらもそろそろ第二の人生を考え、ひょんなことから数年前に行政書士の資格を取りました。これで試験との付き合いも終わりと思ったのですが、つつい法律の面白さにはまってしまい、今は夜になると大学生に混ざって司法試験予備校で法律の勉強をしています。我妻栄、芦部信喜、といった大先達の業績に今更ながら畏敬の念を抱きながらコツコツと学ぶ楽しみを味わう毎日を送っています。

俳句と出会って

森川 節子(昭 55 文)

俳句を始めて 5 年。空の色、雲の形、光の強弱、葉の緑色の微妙な違いなど、今まで気にかけていなかった自然の営みが、とても新鮮に感じられるようになりました。風に様々な名前がついていることも知りました。季語という言葉の存在感に、圧倒され続けた 5 年間でもありました。そして、「成熟しきってとうとう我慢しきれず爆発した冬の歓喜の姿こそ春」(大岡信) という文章と出会って、寒くて苦手だった冬が大好きになりました。

私の早稲田

八木 勝利(昭 47 政研)

学生時代、西武新宿線久米川より乗車し、高田馬場下車、早稲田通り沿いのプラタナスの歩道を徒歩で、裏から大学構内に通いました。当初、談話室で一人の先輩が「君か、兵庫からやって来たのは」と声を掛けてくれました。以来彼とは 50 年近くの付き合いです。その後は東村山稲門会の先輩諸兄と同好会などを通じ交流し、多々有意義に学習させていただきました。今さらながら、個々具体的に得たものを実感しております。

和やかな繋がりで親交を深める

安田 忠治(昭 37 教育)

私にとって、学び舎、特に早稲田大学は若かりし頃、学殖豊かな教師の下で、友と共に学んだことも重要なことであるが、その折々精神的な支柱となり、今日に至っていることである。その背景には早大校歌の「3. 集まり散じて、人は変れど、仰ぐは同じき理想の光」がある。本会は綿密に企画され、会誌を通じて多くの情報を提供し、親交を深めるよう、各自の更なる向上を目指してきていることに敬意を表し、益々の発展を衷心より祈念する。

東村山稲門会・創立 20 周年に寄せて

山崎 光夫(昭 45 教育)

危険はどこに転がっているか知れたものではない。東村山稲門会が産声をあげようとしていた 20 年前、総長・奥島孝康先生をお呼びして OB 有志 20 名ほどが集まり、会の発足が決定した。が、このとき、オウム真理教のテロがいつどこで起きても不思議はない状況だった。会場で東村山稲門会の発足の慶事とテロの恐怖が同時に話題になった。昨今の国際テロの報道に接するとき、ふとあの 20 年前のオウムテロを思い出すのである。

遺書替わりに「遺言書」を

山下 邦康(昭 36 教育)

「遺書」替わりに「本」を出すことを薦めていきます。「遺書」は遺産相続等を主とした法的文書であり、法規に感情挿入の余地は困難です。一方、どんな「本」でも孫子の代まで、子々孫々に至るまで読み継がれて行くものです。大昔、我が家の「ひい爺様」はこんな人柄で立派な方だったと言って聞かせるには役目が違うとは言え「遺言書」に勝るものはないようです。「見栄」をはることなく偉ぶらずに普段のママで書くことが重要です。

住めば都 東村山

山下 進(昭 29 文)

東村山市に住んで 23 年になる。今は勤めも卒業し、市内あちこちを散歩して、まだ緑の残るこの町の良さを楽しんでいる。

糸遊や狭山緑道一直線 (狭山遊歩道)

春うらら空堀川に水戻る (空堀川)

梅咲いて八国山に関の声 (北山公園)

春雨に千体地藏の頬弛ぶ (正福寺)

霊園は野良のまほろば孕猫 (小平霊園)

小林一茶をもじって言えば、

ここがまあ終の棲家か萩の里

素晴らしい友との出会いに感謝

山本 岩男(昭 45 法)

40 年近いサラリーマン生活が終わりに近づいた頃、東村山市には殆ど知人がいないことに気付いた。丁度その頃、稲門会の新入会員の募集の通知が届いたので、渡りに船で入会することにした。同好会に積極的に参加し、多くの素晴らしい友を得ることができた。人生の楽しみは、良き友をうることです。東村山稲門会は、その意味において最高の舞台を提供するものと思います。会員皆で、これからも東村山稲門会の発展を支えて行きましょう。

早稲田という絆

山本 優香(平 27 社学)

私が入会して 1 年が経とうとしています。三鷹在住ですが、勤務地が東村山という御縁から當間会長のご紹介で入会しました。初参加の緊張した総会では、皆様に温かく迎え入れていただいたことを今も鮮明に覚えています。100 キロハイク応援準備委員として携わった活動は、岡田副会長はじめ先輩方のご協力の下、多くの学生の笑顔を見ることができ、世代を超えた早稲田の絆に感激致しました。今後も諸活動に積極的に参加して参ります。

時間がたっても、気兼ねなく

横尾 正宏(昭 60 理工)

先日、大学時代の実験仲間と山梨県の扇山に登った。卒業して三十余年経つ。彼とは卒業から十数年、年賀状の付き合いのみである。とはいえ、一緒に行けば話は通じる。十年前であれば、お互い時間はとれず、一緒に行動することはなかった。しかし、時間の空白は感じない。不思議なものだと思う。彼の基本も自分の基本も早稲田で学ぶ間に作られたものなのだろう。大切な四年間、早稲田で過ごすことができて良かったと思う。

7 月のウォーキング会に参加して

吉澤 勇(昭 37 法)

7 月のウォーキングはブラジルのシュラスコの食べ放題ランチ付きの企画でした。慶大三田校キャンパス散策後有栖川公園を抜け、六本木ヒルズの店バルバコスまでの散策。珍しいブラジル鉄串焼肉が食べられると期待して足取りも軽く歩が進みました。シュラスコランチは期待通り美味しく全員で堪能してきました。因みにシュラスコはポルトガル語で鉄串に牛肉や豚肉、鶏肉を串刺し岩塩を振って炭火でじっくり焼く南米の肉料理だそうです。

東村山稲門会の歌

吉澤 雅子(昭 38 文)

音楽同好会では冒頭東村山稲門会の歌を斉唱する。入会して歌の存在を知った。ある先輩から 20 年前の稲門会立ち上げから 10 年の節目に委員会を立ち上げ、フレーズを持ち寄り歌詞を作り上げたと言った。なんと素晴らしいことだろう！「青春の日を思い出す」「稲門語らうところ」は特に親しみを感ずる。「多摩湖の水面」「八国山」は東村山稲門会によく似合っている。先輩諸氏の意気込みと情熱が詰まった手作りの歌を歌い継いでいる

人生後半は臙脂色

吉田 劭文(昭 41 法)

退職後 4 年を経た 3 年前、稲門会へ入会した。以前は、元勤務先の関係者や昔の学窓仲間が主な交際相手であったが、入会後は会員との繋がりが深まり、早稲田色が濃くなった。

都の西北・東村山で、早稲田の杜に学んだ同窓とのテニス・美酒佳肴・諸行事を通じての触れ合いが、人生後半戦を楽しませてくれている。

私の東村山稲門会 20 年

吉田 勝(昭 43 理工)

東村山稲門会の発足以来稲門会に参加してきました。発足当初は知り合いも会社の先輩である野口順正さんのみで、活動も年 2 回のゴルフコンペに参加する程度でした。会社をリタイアしたここ数年で誕生会、ウォーキングの会、テニス同好会、旅行同好会などの行事にも参加するようになり知己も増え、同期の當間会長のもとで副会長まで仰せつかり、旅行会、映画会の幹事役、稲門祭役員など今までの受益者分をお返しする貢献ができればと考えています。

五分の一世紀

吉高 太郎(昭 53 政経)

あれから 20 年。設立総会にご近所の今は亡き商学部奥山教授にお誘いを受け出席。当時 41 歳の私も還暦を越えたがいまだに現役で仕事をしている。幾度か会主催の行事にも出たがポストマンとして末端でかかわっているに過ぎない。ただ早稲田との繋がりは 2002 年から毎年留学生のホストファミリーとして我が家で 15 名、娘が 5 名と受け入れ、今後も継続する予定。期間は 1 年近くと長期だが皆さんの中で興味がある方はご連絡を。

趣味の油絵

吉本 正典(昭 29 商)

スペイン駐在している時にマドリードのサンフェルナンド美術学校(現在のマドリード大学美術学部)卒業生で現在もマドリード在住の中島画伯に、家族と共に油絵の指導を受けた。お陰で油絵が趣味になった。以前は 10 号、20 号、30 号のキャンパスを使用していたが、現在は 6 号、及び 8 号を使用、以前のように活発に描いて無い。もう一度頑張ってお絵に挑戦したいと思っております。



(當摩照夫 撮影)



(山本岩男 撮影)

東村山稲門会の歌

一 多摩湖の水面陽に輝きて
進取の精神學びたる

青春の日思い出す

我ら稲門集まるところ

早稲田 早稲田 早稲田

東村山稲門会

二 八国山に溢れるみどり
北山に咲く花菖蒲

東村山ここに住む

我ら稲門語らうところ

早稲田 早稲田 早稲田

東村山稲門会

三 永遠の絆の心は一つ
久遠の理想確かなる

母校の榮譽引き継がん

我ら稲門飛翔のところが

早稲田 早稲田 早稲田

東村山稲門会

東村山稲門会の歌 10 周年委員会作詞／ボニージャックス作曲

創立 20 周年記念特別号の編集を終えて

○ 創立 20 周年の節目に、祝賀を形にする小冊を企画しました。心のふるさとが同じ多彩な稲門仲間の寄稿支援により「ニュース記念特別号」発行が実現できました。「20 年の歩み」を編むに、会設立に奔走された先人の草創期の足跡を探り、爾来今日に至る活動の歴史と着実な実績経緯を手持ちの資料等から紐解きました。改めて斬新な稲門会を築かれた諸先輩の高い志と精神性に敬意を表し、新風が漲る次世代への継承にも努めて参ります。

記 岡田 一郎

○ 約 10 年前に会員になり、色々な行事・同好会に参加して、楽しんでおります。創立 20 周年を迎え、私の知らない初めの 10 年はどうなっていたのだろう、設立当時のご苦労等を知りたく思っていました。縁があつて 20 周年記念号の編集委員になり、先輩たちのご苦労話や昔の貴重な写真を整理するお手伝いが出来ました。今回集めた過去の記録を確実に次世代に残し、次の 30 周年に向けた、スタート出来ればと考えております。

記 小菅 宏

○ 私が東村山稲門会に関わり始めたのは 10 周年記念事業からでした。ボニージャックスのコンサートや東村山稲門会の歌の制定など、懐かしい思い出です。今回の 20 周年では、会員全員からのメッセージを集めた記念号を作ろうという岡田さんの提案で、5 人の広報委員を中心に頑張りました。さすがに全員からというわけにはいきませんでした、それでも 118 名もの会員から 200 字の想いをいただきました。お陰様で記念号にふさわしいものになったと思います。ありがとうございました。

(20 年の歩みに使われている写真の多くは赤荻 洋一さん撮影です。)

記 當摩 照夫

○ 東村山稲門会が 20 周年を迎えるにあたり、その記録を残そうとするメンバーに加えていただき感謝に堪えません。自分はただ敷かれたレールの上で、その一部に携わっただけですが、一生懸命立派な 20 周年特別号に仕上げようと、無償のエネルギーを捧げて頑張る岡田氏、當摩照氏、福田氏、小菅氏のご努力にエールを贈りたいと思う。何が彼等を夢中にさせるのであろうか？また宿題が増えた、実るほど首を垂れる稲穂かな！

記 野村 茂樹

○ 私が東村山稲門会に参加し丁度 10 年になります。改めて 20 年間の東村山稲門会の歩みを纏め又今回会員の皆様 200 字エッセイを投稿頂き興味深く、楽しく編纂させて頂きました。早稲田大学が総合大学であり早稲田マンの広い分野での活躍を彷彿とさせられます。次の節目、東村山稲門会 30 年には、さらに若いメンバーも集い、幅広い素晴らしい東村山稲門会に発展することを祈ります。

記 福田 昇七